

京都大學人文科學研究所所藏
『天地瑞祥志』第七翻刻・校注―外官（二）

高橋 あやの

はじめに

本稿は、第六十一號に掲載の『天地瑞祥志』第七「外官」の翻刻・校注の續編である。概要や凡例については、「京都大學人文科學研究所所藏『天地瑞祥志』第七翻刻・校注―外官（一）」を参照されたい。

翻刻・校注

31
①

十二國□巫咸日國十六星次牛女開外齊（在諧反平）一星在九坎東北鄭（呈併反去）一星在趙北周（諸留反平）二星在越東代（除齊反去）二星在秦南韓（朝干反平）一星在晋北楚（初旅反上）一星在魏西趙（除矯反上）二星在周東南北行晋（津胤反去）一星在代西魏（魚責反去）一星在韓北燕（於見反平）一星在楚南齊趙諸國應天列宿云地九州也

「一」「貴」に作る。

「二」「土」に作る。

31 ②

十二國。巫咸曰、「國十六星、次牛女開外。齊（在諧反、平。）一星、在九坎東北。鄭（呈併反、去。）一星、在趙北。周（諸留反、平。）二星、在越東。代（除賚反、去。）二星、在秦南。韓（胡干反、平。）一星、在晉北。楚（初旅反、上。）一星、在魏西。趙（除矯反、上。）二星、在周東南、北行。晉（津胤反、去。）一星、在代西。魏（魚貴反、去。）一星、在韓北。燕（於見反、平。）一星、在楚南。齊趙諸國應天列宿、土地九州也。」

31 ③

十二國。巫咸曰く、「國（十六星、牛女に次ぎて外に開く。）齊（在諧の反、平。）一星、九坎の東北に在り。鄭（呈併の反、去。）一星、趙の北に在り。周（諸留の反、平。）二星、越の東に在り。代（除賚の反、去。）二星、秦の南に在り。韓（胡干の反、平。）一星、晉の北に在り。楚（初旅の反、上。）一星、魏の西に在り。趙（除矯の反、上。）二星、周の東南に在り、北行す。晉（津胤の反、去。）一星、代の西に在り。魏（魚貴の反、去。）一星、韓の北に在り。燕（於見の反、平。）一星、楚の南に在り。齊趙諸國天の列宿に應じ、土地の九州なり。」と。

31 ④

(一) 『天文要録』卷五十一・十二國星二十五

齊一星、趙二星、鄭一星、越一星、楚一星、燕一星、晉二星、韓一星、魏一星、周二星、秦二星、伐二星、一。『九州分野星圖』曰、「諸國應天列宿、土地辨九州。」

右十二國十六星皆在牛女之間北

〔參考〕『步天歌』

十二諸國在下陳。

『宋史』天文志

十二國十六星、在牛女南、近九坎。各分土居列國之象。

(二) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

齊一星、在九坎東北。(趙諸國應天列宿、土地辦九州。)

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者(『晉書』無文)

九坎東列星、北一星曰齊、齊北二星曰趙、趙北一星曰鄭、鄭北一星曰越、越東二星曰周、周東南北列二星曰秦、秦南二星曰代、代西一星曰晉、晉北一星曰韓、韓北一星曰魏、魏西一星曰楚、楚南一星曰燕。其星有變、各以其國。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・齊星占二十五

齊一星、在九坎東。

『篆隸萬象名義』卷第二十九齊部

齊、在奚反。

※卷第一二部に「參、齊也、在鷄反」、卷第一示部に「齋、側階反。」とあり。

(三) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

鄭一星、在趙北。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・鄭星占二十七

鄭一星、在趙東北。

『篆隸萬象名義』卷第二邑部

鄭、馳敬反。

(四) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

周二星、在越東。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・周星占二十九

周二星、在越東北。

『篆隸萬象名義』卷第五口部

周、諸由反。

※卷第二十八勺部に「匚、之由反。周字。」とあり。

(五) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

代二星、在秦南。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・代星占三十一

代二星、在秦東南。

『篆隸萬象名義』卷第三人部

代、徒賚反。

(六) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

韓一星、在晉北。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・韓星占三十三
韓一星、在晉北。

『篆隸萬象名義』卷第二十六章部

韓、胡丹反。

(七) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

楚一星、在趙東。一曰魏西。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・楚星占三十五

楚一星、在魏西南、近鄭星。

『篆隸萬象名義』卷第十二林部

楚、初旅反。

(八) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

趙二星、在齊北。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・趙星占二十六

趙二星、在齊西北。

『篆隸萬象名義』卷第十走部

趙、除矯反。

(九) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

晉二星、在齊東。一曰、在代西。

『開元占經』卷七十·巫咸中外官·晉星占三十二
晉一星、在代西南。

『篆隸萬象名義』卷第二十日部
晉、子各反。

(十) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

魏一星、在韓北。

『開元占經』卷七十·巫咸中外官·魏星占三十四

魏一星、在魏西南、近鄭星。

『篆隸萬象名義』卷第二十鬼部

魏、魚貴反。

(十一) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

齊一星、在九坎東北。(趙諸國應天列宿、土地辨九州)……燕一星、在楚南。

『天文要錄』卷五十一·十二國星二十五

齊一星、趙二星、鄭一星、越二星、楚一星、燕一星、晉二星、韓一星、魏一星、周二星、秦二星、伐二星、一。『九

州分野星圖』曰、「諸國應天列宿、土地辨九州。」

『開元占經』卷七十·巫咸中外官·燕星占三十六

燕一星、在楚東南、近晉星。巫咸曰、「齊趙諸國應天列宿、土地九州。其星有變、各爲其國。」

『篆隸萬象名義』卷第二十四燕部

燕、於見反。

※「越」と「秦」が抜けている。恐らく、(七)の箇所にあつたと考えられる。

32 ①

離瑜（庚俱反平） 巫咸曰三星在秦代東南西北列既飭外見魄始女宿相助也

32 ②

離瑜（庚俱反、平。）。巫咸曰、「三星。在秦・代東、南北列。玩飭。外見舅姑。」女宿相助也。

32 ③

離瑜（庚俱の反、平。）。巫咸曰く、「三星。秦・代の東に在り、南北列す。玩飭なり。外に舅姑に見ゆ。」と。女宿の相

助なり。

32 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第一玉部

瑜、翼珠（反）。

(二) 『三家簿讚』（巫咸中外官）

離瑜三星、在秦代東、南北列。へまゝ玩飭、殊外見舅姑。

『天文要録』卷五十・離瑜二十六

殷巫咸曰、「離瑜三星、在秦・代東、南北列。主玩飭、外見舅姑。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者（『晉書』無文）

秦・代東三星南北列、曰離瑜。離圭衣也、玉飭、皆婦人之服星也。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・離瑜星占三十七

巫咸曰、「離瑜三星、在代東、南北列。離圭衣也。瑜玉飭。此婦人服也。」『巫咸讚』曰、「離瑜玩飭、并見

舅姑。」

33 ①

天田（殿眠反平）甘德曰九星在牛南本農耕器犁鋤郗萌曰星入天田天下變大臣訟之也

33 ②

天田（殿眠反、平）。甘德曰、「九星。在牛南。本農耕器、犁鋤。」郗萌曰、「星入天田、天下變、大臣訟。」之也。

33 ③

天田（殿眠の反、平）。甘德曰く、「九星。牛の南に在り。本農の耕器、犁鋤なり。」と。郗萌曰く、「星天田に入れば、

天下に變あり、大臣訟ふ。」と。之なり。

33 ④

（一）『篆隸萬象名義』（目錄）

田、徒堅反。

※卷第二田部、本文脫。

（二）『三家簿讚』（甘氏外官）

天田九星、在牽牛東南。主本農耕器、犁鋤。

※「東」の右に「南家」の傍書あり。

『天文要録』卷四十九・天田十

齊文卿曰、「天田九星、在牽牛南。主本農耕器、犁鋤。主九品亭。」

『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者（『隋書』略同文）

天田九星、在牛南。

『開元占經』卷七十・甘氏外官・天田星占十

甘氏曰、「天田九星、在牽牛南。」……『甘氏讚』曰、「天田本農耕器、犁鋤。」

(三)『開元占經』卷八十四・客星占八・客星犯甘氏外官三・客星犯天田四

郝萌曰、「有星入天田、天下有變。」

34 ①

哭（口木反入）甘德曰二星在虛南晉志曰哭泣二星主哭皆近墳墓也太白犯哭星有哭泣月五星犯哭泣天子有哭泣事也晉孝武帝太元卅一年六月歲星犯哭星占曰有哭泣是年九月帝崩泣（丘立反入）甘德曰二星次哭東

34 ②

哭（口木反、入）。甘德曰、「二星。在虛南。」『晉』志曰、「哭泣二星、主哭。皆近墳墓也。太白犯哭星、有哭泣。月五星犯哭泣、天子有哭泣事也。晉孝武帝太元卅一年六月、歲星犯哭星。占曰、「有哭泣。」是年九月、帝崩。」泣（丘立反、入）。甘德曰、「二星。次哭東。」

34 ③

哭（口木^二の反、入。）。甘徳曰く、「^三二星。虚の南に在り。」と。『晉』志に曰く、「^三哭泣二星、哭くを主る。皆な墳墓に近きなり。太白^四哭星を犯せば、哭泣有り。月五星哭泣を犯せば、天子に哭泣の事有るなり。晉の孝武帝太元廿一年六月、歲星哭星を犯す。占に曰く、「哭泣有り。」と。是の年の九月、帝崩す。」と。泣（丘立^五の反、入。）。甘徳曰く、「^六二星。哭の東に次ぐ。」と。

34 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第九卅部

哭、口木反。

(二) 『三家簿讚』（甘氏外官）

哭二星、在虚南。（泣悲涼。）

『天文要録』卷四十九・哭星十一

齊甘徳曰、「哭二星、在虚南。主喪庭車葬。」

『開元占經』卷七十・甘氏外官・哭星占十一

甘氏曰、「哭二星、在虚南。」

(三) 『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者（『隋書』略同文）

虚南二星曰哭、哭東二星曰泣、泣・哭皆近墳墓。

(四) 『天文要録』卷四十九・哭星十一・占流星

黄帝曰、「流星出入哭泣間、天子有哭泣聲。不息、天下大赦。」

『晉書』卷十三・天文志下・月五星犯列舍（『隋書』無文）

十月己未、太白犯哭星。占曰、「有大哭泣。」……（太元元年）九月、熒惑犯哭・泣星、遂入羽林。占曰、「天子有哭泣事、中軍兵起。」……四年十一月丁巳、太白犯哭星。占曰、「天子有哭泣事。」……（太元二十一年）六月、歲星犯哭・泣星。占曰、「有哭泣事。」是年九月、帝崩。

『乙巳占』卷二・月干犯中外占

月行入哭星、有大喪、主崩。

(五) 『篆隸萬象名義』卷第十九水部

泣、口立反。

(六) 『三家簿讚』（甘氏外官）

泣二星、在哭星東。（右說同。）

『天文要錄』卷四十九・泣星十二

齊文卿曰、「泣二星、在哭南。哭泣四星同占。」

『開元占經』卷七十・甘氏外官・泣星占十二

甘氏曰、「泣二星、在哭星東。」

35 ①

天壘〔戸揆反上〕巫咸曰十二如貫索拔在哭南主北夷丁零匈奴之

〔一〕〔屢〕に作る。

35 ②

天壘（屢揆反、上。）。巫咸曰、「十二。如貫索狀。在哭南。主北夷丁零・匈奴。」之。

35 ③

天壘（屢揆の反、上。）。巫咸曰く、「十二。貫索の狀の如し。哭の南に在り。北夷の丁零・匈奴を主る。」と。之なり。

35 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第四土部

壘、屢揆反。

(二) 『三家簿讚』（巫咸中外官）

天壘城十三星、如貫索狀、南北列。在哭泣南。へへへ北夷丁零・匈奴。

『天文要錄』卷五十・天壘城二十七

殷巫咸曰、「天壘城十二星、如貫索狀。在哭泣南。主北夷丁零・匈奴。」

『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者（『隋書』略同文）

泣南十三星曰天壘城、如貫索狀、主北夷丁零・匈奴。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・天壘城星占三十八

巫咸曰、「天壘城十三星、如貫索狀。在哭泣南。」『巫咸讚』曰、「天壘主北夷丁零・匈奴。」

36 ①

天錢（子踐反平）巫咸曰十星在北落西北藏府聚詮誇也

36 ②

天錢（子踐反、平）。巫咸曰、「十星。在北落西北。藏府。聚談[□]誇也。」

36 ③

天錢（子踐の反、平）。巫咸曰く、「十星。北落の西北に在り。藏府。誇を談ずるを聚むるなり。」と。

36 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第十八金部

錢、子踐反。

(二) 『三家簿讚』（巫咸中外官）

天錢十星、在北落西北。藏府。集衆貨財。

『天文要錄』卷五十・天錢二十九

殷巫咸曰、「天錢十星、在北落西北。主藏府。聚集談誇。一名天財、一名珍財。」

『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者（『隋書』は「其」を「北落」に作る）

（北落師門）其西北有十星、曰天錢。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・天錢星占四十二

巫咸曰、「天錢十星、在北落西北。」『巫咸讚』曰、「天錢藏府。聚衆談誇。」

37 ①

敗白（薄邁反去渠九反上）石氏曰四星在虛南西南星入十度去極百卅一度少在黃道外十九度知灾凶穀所占也穀毀故敗白也

熒惑守敗白飢喪石氏曰他星守飢兵起也

37 ②

敗白（薄邁反、去。渠九反、上。）石氏曰、「四星。在虛南。西南星入女十度、去極百卅一度少、在黃道外十九度。知災凶。」穀所占也。穀毀、故敗白也。熒惑守敗白飢・喪。石氏曰、「他星守飢兵起也。」

37 ③

敗白（薄邁の反、去。渠九の反、上。）石氏曰く、「四星。虛の南に在り。西南星女に入ること十度、極を去ること百卅一度少、黃道の外に在ること十九度。災凶を知る。」と。穀もて占ふ所なり。穀毀つ、故に敗白なり。熒惑敗白を守せば飢・喪あり。石氏曰く、「他星守せば飢兵起こるなり。」と。

37 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第十八支部

敗、薄芥反。

(二) 『篆隸萬象名義』卷第十五白部

白、渠九反。

(三) 『三家簿讚』（石氏外官）

敗白四星、在虛・危南。（敗白四星、知凶災。）

『天文要録』卷四十六・敗舊十二

主穀毀府也。魏石申夫曰、「敗舊四星、在虛南。主知災凶。一名北境、一名坎水、一名太陰。主水神府也。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者（『晉書』無文）

敗白四星、在虛・危南、知凶災。他星守之、飢兵起。

『開元占經』卷六十八・石氏外官・敗白星占十二

石氏曰、「敗白四星、在虛・危南〔西南星入須女〕十度、去極百三十一度少、在黃道十九度。〕……石氏曰、「敗白一星不具、民賣釜甑、去其處。一曰、敗白一星、主凶災。」

(四)『天文要錄』卷四十六・敗舊十二・占熒惑

石申曰、「熒惑守敗舊、貴人飢・喪竝起。」

『開元占經』卷三十七・熒惑犯石氏外官一・熒惑犯敗白十二

石氏曰……又占曰、「熒惑守敗白飢・喪。」

(五)『天文要錄』卷四十六・敗舊十二・占客星

石申夫曰、「客星守敗舊、其國飢兵起。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者〔『晉書』無文〕

敗白四星、在虛・危南、知凶災。他星守之、飢兵起。

『開元占經』卷八十四・客星占八・客星犯石氏外官・客星犯敗白十二

石氏曰、「他星守敗白、以饑兵起。」

38 ①

蓋屋〔歌頰反去於鹿反入〕甘德曰二星在危南主柱梁棟榑□晉志曰治官之官也

38 ②

蓋屋〔歌頰反、去。於鹿反、入。〕甘德曰、二星。在危南。主柱梁棟榑。『晉』志曰、「治官之官也。」

38 ③

蓋屋（歌頰の反、去。於鹿の反、入。）。甘徳曰く、二星。危の南に在り。柱梁棟榑を主る。」と。『晉』志に曰く、「宮を治むるの官なり。」と。

38 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第十六皿部

蓋、居泰反。

(二) 『篆隸萬象名義』卷第十一戸部

屋、於鹿反。

(三) 『三家簿讚』（甘氏外官）

蓋屋二星、在虛南。一曰、在危南。〈蓋屋、室梁柱榑。〉

『天文要録』卷四十九・蓋屋十三

齊文卿曰、「蓋屋二星、在亢南。厄室梁柱榑。」陳卓曰、「蓋屋、天子主後屋柱梁也。」

『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者〔隋書〕は「南」の前に「危」、「治」の前に「主」の字あり

（天壘城）南二星曰蓋屋、治宮室之官也。

『史記』卷二十七・天官書

北宮玄武、虛・危。危爲蓋屋。

(一) 正義「蓋屋二星、在危南。主天子所居宮室之官也。」

『開元占經』卷七十・甘氏外官・蓋屋星占十二

甘氏曰、「蓋屋二星、在危南（主蓋治之官也）。」『甘氏讚』曰、「危蓋屋室、柱樑侏儒。」

39 ①

虛梁（欣衣反平力將反平） 巫咸曰四星在危南宮宅屋帳寢幃也晉志曰國陵寢廟之所之

39 ②

虛梁（欣衣反、平。力將反、平。）。巫咸曰、「四星。在危南。宮宅・屋帳・寢幃也。」『晉』志曰、「國陵寢廟之所。」之。

39 ③

虛梁（欣衣反、平。力將反、平。）。巫咸曰く、「四星。危の南に在り。宮宅・屋帳・寢幃なり。」と。『晉』志に曰く、「國陵寢廟の所。」と。之なり。

39 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二北部

虛、去餘反。

(二) 『篆隸萬象名義』卷第十二木部

梁、力將反。

(三) 『三家簿讚』（巫咸中外官）

虛梁四星、如宦者狀。在危南、東西列。へまゝ、宮宅・帷帳・寢幃、直流反。禪帳也。

『天文要錄』卷五十・虛梁二十八

主虛梁、宅輔育生也。殷巫咸曰、「虛梁四星、如宦者狀者、在危南、東西列。主宮宅・屋室・寢幃。」

『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者

(蓋屋) 其南四星曰虛梁、**園陵**・寢廟之所也。

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者

虛梁四星、在蓋屋南、主**園陵**・寢廟。非人所處、故曰虛梁。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・虛梁星占三十九

巫咸曰、「虛梁四星、在危南。」(虛梁**園陵**也。非人所處、故曰虛梁也。)< 『巫咸讚』曰、「虛梁、宮室・屋室・謹禱。」

40 ①

天剛(古郎反平) 巫咸曰一星在北落西南主武帳官府置郵

40 ②

天剛(古郎反、平。)。巫咸曰、「二星。在北落西南。主武帳。官府置郵。」

40 ③

天剛(古郎の反、平。)。巫咸曰く、「^(一)二星。北落の西南に在り。武帳を主る。官府郵を置く。」と。

40 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第十七刀部

剛、居郎反。

(二) 『三家簿讚』(巫咸中外官)

天罡一星、在北落西南。<武帳。官府置郵。>

『天文要録』卷五十・天罡三十

主天罡、天子之武官也。殷巫咸曰、「天罡一星、在北落西南、主武帳、宮府置郵。」

『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者（『隋書』略同文）

北落西南一星曰天綱、主武帳。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・天綱星占四十一

巫咸曰、「天綱一星、在北落西南（天綱、大組索也。以張帳幔、天子遊犒、野次所須。）」『巫咸讚』曰、「天綱武帳、宮府置衛。」

41 ①

鈇質（方于反平之逸反入）巫咸曰二星在八魁西北距離斬伐姦謀

41 ②

鈇質（方于反、平。之逸反、入。）。巫咸曰、二星。在八魁西北。距離、斬伐姦謀。」

41 ③

鈇質（方于の反、平。之逸の反、入。）。巫咸曰く、「二星。八魁の西北に在り。難を距ふせぎ、姦謀を斬伐す。」と。

41 ④

（一）『篆隸萬象名義』卷第十八金部

鈇、方禹反。質。

（二）『篆隸萬象名義』卷第二十五貝部

質、之逸反。又、知異反。

〔三〕『三家簿讚』（巫咸中外官）

鉄鎖二星、在八魁西北。〈斧贊距難、斬伐慢耶。〉

『天文要錄』卷五十・鉄鎖三十一

主鉄鎖、喪煞象也。殷巫咸曰、「鉄鎖二星、在八魁西北、主距難斬伐曼耶。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者（『晉書』無文）

八魁西北三星曰鉄質、一曰鉄鉞。有星入之、皆爲大臣誅。

『開元占經』卷七十・巫咸中外官・鐵鎖星占四十二

巫咸曰、「鉄鎖三星、在八魁西北。一曰鉄鉞。」……『巫咸讚』曰、「鉄鎖拒難、斬伐姦謀。」

42
①

羽林（于主反上力金反平）石氏曰卅五星在室南西星去極百廿度大主翼王天王武官也天軍主軍騎也星衆而明其國安常動百兵水官室宿相助也羽中无星兵盡出郗萌曰月宿材官兵大起材官者羽別名之也五星入天南庫有反臣兵（羽之名也）石氏曰熒惑經羽臣斂主其兵芒角赤守天軍卅日有急起兵卅日以上大人當晋惠帝元康六年八月熒惑入羽林占曰禁兵大起其後帝見廢為大上皇俄而三王起兵計趙王備々患遣中軍兵相距累月郗萌曰太白經過羽天子為軍自守黃帝占曰太白守羽兵起期六十日郗萌曰客星守兵起赤星守卅日臣斂主傳緯曰彗出軍人反也

〔一〕「有」に作る。

〔二〕「斂」に作る。

羽林（于主反、上。力金反、平。）石氏曰、「卅五星。在室南。西星去極百升度太。主翼王。」天王武官也。天軍、主軍騎也。星衆而明、其國安、常動百兵。水官。室宿相助也。羽中无星、兵盡出。」郗萌曰、「月宿材官、兵大起。材官者羽別名。」之也。「五星入天南庫、有反臣、兵。」（羽之名也。）石氏曰、「熒惑經羽、臣煞主、其兵。芒角赤守天軍、卅日有急、起兵。卅日以上大人當之。」晉惠帝元康六年八月、熒惑入羽林。占曰、「禁兵大起。」其後、帝見廢爲太上皇、俄而三王起兵討趙王倫、倫悉遣中軍兵、相距累月。」郗萌曰、「太白經過羽、天子爲軍自守。」『黃帝占』曰、「太白守羽、兵起。期六十日。」郗萌曰、「客星守兵起、赤星守卅日臣煞主。」『傳緯』曰、「彗出、軍人反也。」

羽林（于主の反、上。力金の反、平。）石氏曰く、「卅五星。室の南に在り。西星極を去ること百升度太。翼王を主る。」と。「天王の武官なり。天軍なり、軍騎を主るなり。星衆にして明なれば、其の國安んじ、常に百兵を動かす。水官なり。室宿の相助なり。羽中に星无ければ、兵盡く出づ。」と。郗萌曰く、「月材官に宿せば、兵大いに起くる。材官は羽の別名なり。」と。之なり。「五星天の南庫に入れば、反臣有り、兵あり。」と。（羽の名なり。）石氏曰く、「熒惑羽を経れば、臣主を煞し、其れ兵あり。芒角ありて赤く天軍を守せば、卅日にして急有り、兵を起こす。卅日以上なれば大人之に當たる。」と。「晉の惠帝元康六年八月、熒惑羽林に入る。占に曰く、「禁兵大いに起くる。」と。其の後、帝廢せられ太上皇と爲り、俄かにして三王兵を起こし趙王倫を討ち、倫悉く中軍の兵を遣はし、相ひ距ぐこと月を累ぬ。」と。郗萌曰く、「太白羽を経過せば、天子軍を爲して自ら守る。」と。『黃帝占』に曰く、「太白羽を守せば、兵起くる。期は六十日。」と。郗萌曰く、「客星守せば兵起こり、赤星守せば卅日にして臣主を煞す。」と。『傳緯』に曰く、「彗出づれば、軍人反くなり。」と。

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二十六羽部

羽、侯詡反。

(二) 『篆隸萬象名義』卷第十二林部

林、力金反。

(三) 『三家簿讚』(石氏外官)

羽林卅五。壘壁陳十二星。凡五十七星、在營室南。〈壘壁陳十二星、爲營維。〉

※「陳」の左に「陣イ」の傍書あり。

『天文要録』卷四十六・羽林辟陳十三

主羽林、翼王也。天子武官也。主天軍騎也。一名林官、一名天南庫、一名單軍。石申夫曰、「羽林卅五星、壘辟

陳十二星、在營室南。主軍糧、水官也。」……『春秋緯』曰、「羽林、主軍騎。西有壘城、主軍位。旁一大星爲北落。」

『天文要録』卷四十六・羽林辟陳十三・占羽林

『東晉紀』曰、「羽林衆星明暉、經歲、天下安寧、君臣昌、民人豐、五穀熟。」

『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者(『隋書』略同文)

羽林四十五星、在營室南。一曰天軍。主軍騎、又主翼王也。

『史記』卷二十七・天官書

(虛・危) 其南有衆星、曰羽林天軍。

(1) 正義「羽林四十五星、三三而聚、散在壘壁南。天軍也。亦天宿衛之兵革出。」

『開元占經』卷六十八·石氏外官·羽林星占十三

石氏曰、「羽林四十五星、壘壁陣十二星、凡五十七星、在營室南。〈四星入危四度太、去極百二十度太〉、在黃道外十三度太也。〉……『春秋合誠圖』曰、「危南有衆星曰羽林、爲天軍。又羽林軍、水官也。』『元命苞』曰、「羽林主軍騎。』『黃帝占』曰、「羽林星三三而居、行列相隨、守衛之官也。其星實而衆明、王者吉、其國安。星希而不明、若動、兵士出。星若亡不見、天下兵盡出。」郗萌曰、「羽林星不欲動、動即有兵、不出六十日兵車發、有所之而起。又曰、不出三十日有兵。又曰、羽林中無星、天下兵盡出。一曰、大將軍發、若大赦。』……『石氏讚』曰、「羽林衆星主翼王。」

(四) 『天文要錄』卷四十六·羽林辟陳十三·占月行

『東晉紀』曰、「月犯羽林中、其國女后有喪臣、兵大起。不出二年。」

『乙巳占』卷二·月干犯中外占

月宿羽林軍、兵大起。

『開元占經』卷十四·月占四·月犯石氏外官二

郗萌曰、「月宿羽林中、兵大起。」

『開元占經』卷六十八·石氏外官·羽林星占十三

郗萌曰、「羽林、一名材官、一名天南庫、一名單于軍。又主翌王。」

(五) 『開元占經』卷二十九·歲星占七·歲星犯石氏外官一·歲星犯羽林十二

郗萌曰、「歲星入守羽林、有反臣中兵起也。」

『開元占經』卷三十七·熒惑占八·熒惑犯石氏外官一·熒惑犯羽林十三

郗萌曰、「熒惑入守羽林、有叛臣中兵也。」

『開元占經』卷四十四・填星占七・填星犯石氏外官一・填星犯羽林十三

郗萌曰、「填星入羽林、爲叛臣中兵也。」

『開元占經』卷五十二・太白占八・太白犯石氏外官一・太白犯羽林九

郗萌曰、「太白入羽林、有反臣中兵也。」

『開元占經』卷五十九・辰星占七・辰星犯石氏外官一・辰星犯羽林十三

郗萌曰、「辰星入羽林、有反臣中兵。」

(六) 『天文要錄』卷四十六・羽林辟陳十三・占熒惑

石申曰、「熒惑守犯合羽林、其國兵革行、貴人大懼、下臣欲煞主。其芒角赤、守羽林、經三旬、天下有急、兵甲、大人有喪。」

『開元占經』卷三十七・熒惑占八・熒惑犯石氏外官一・熒惑犯羽林十三

石氏曰、「熒惑守羽林、馬有行、期三十日。又占曰、熒惑芒角赤色、守天軍三十日、大國有急、諸侯悉發兵甲。

一曰、興兵者亡。又占曰、熒惑守羽林、兵起、期六十日。火經羽林、臣欲弑主。……『聖治符』曰、「熒惑入

羽林、守之二十日以上、臣欲弑主、大人當之、期九十日。」〈案『荊州占』曰、「漢二年、熒惑入羽林起角三芒、

守之三十日、國有負兵、秦以之亡也。〉

(七) 『晉書』卷十三・天文志下

惠帝元康……(九年)八月、熒惑入羽林。占曰、「禁兵大起。」其後、帝見廢爲太上皇、俄而三王起兵討趙王倫、

倫悉遣中軍、兵相距累月。

(八) 『天文要錄』卷四十六·羽林辟陳十三·占熒惑

郗萌曰、「熒惑·太白入返過羽林中、天子以軍自守、立侯、王宮門不通、伐蜀。」

『開元占經』卷五十二·太白占八·太白犯石氏外官一·太白犯羽林九

郗萌曰、「太白入羽林、有反臣中兵也。……太白經過羽林中、天子爲軍自守。」

(九) 『開元占經』卷五十二·太白占八·太白犯石氏外官一·太白犯羽林九

『黃帝占』曰、「太白守羽林、兵起。朞六十日。」

(十) 『乙巳占』卷七·客星犯中外官占

客星守羽林軍、天下兵戈大起。

『開元占經』卷八十四·客星占八·客星犯石氏外官·客星犯羽林十三

郗萌曰、「客星守羽林若天陣、兵大起。」郗萌曰、「客星守天陣、將兵吏憂。」郗萌曰、「赤星守羽林二十日、臣

弑主。」

(十一) 『乙巳占』卷八·彗孛犯中外官占

彗孛出羽林軍、其衛軍反。

『開元占經』卷九十·彗星占下·彗星犯石氏外官二·彗孛犯羽林十三

『春秋緯』曰、「彗星出羽林、軍人謀反。」

43 ①

壘壁陳〔屢揆反上捕歷反〕石氏曰十二星在室東南頭為榮雍〔壘城壁也雍郛也〕壁宿相也晉志曰羽林之垣壘也主軍位為

營雍也五星入皆為兵起太白辰星尤甚也口郗萌曰五星犯守天陣為兵起有破軍死將太白入天壘有兵起期百升日内也

「一」「壁」に作る。

43 ②

壘壁陳〈屢揆反、上。捕歷反、入。〉。石氏曰、「十二星。在室東南（頭[□]）、為營雍。」〈壘城壁也。雍郗也。〉壁宿相也。『晉』志曰、「羽林之垣壘也。主軍位。為營雍也。五星入、皆為兵起。太白・辰星尤甚也」。郗萌曰、「五星犯守天陣、為兵起、有破軍死將。太白入天壘、有兵起。期百升日内也」。

43 ③

壘壁陳〈屢揆^二の反、上。捕歷^二の反、入。〉。石氏曰く、「十二星。室の東南に在り、營雍^た為り。」〈壘は城壁なり。雍は郗なり。〉と。壁宿の相なり。『晉』志に曰く、「羽林^四の垣壘なり。軍位を主る。營雍^た為るなり。五星入れば、皆な兵の起こると為す。太白・辰星尤も甚だしきなり。」と。郗萌曰く、「五星^五天陣を犯守せば、兵の起こると為し、軍を破り死將有り。太白天壘に入れば、兵の起こる有り。期は百升日内なり。」と。

43 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第四土部

壘、屢揆反。

(二) 『篆隸萬象名義』卷第四土部

壁、補歷反。

(三) 『三家簿讚』(石氏外官)

羽林卅五、壘壁陳十二星、凡五十七星、在營室南。〈壘壁陳十二星、為營雍。〉

『天文要錄』卷四十六·羽林辟陳十三

魏石申曰、「羽林卅五星、壘壁陳十二星、在營室南。主軍糧、水官也。」

『開元占經』卷六十八·石氏外官·羽林星占十三

石氏曰、「羽林四十五星、壘壁陣十二星、凡五十七星、在營室南。〈四星入危四度太、去極百二十度太、在黃道外十三度太也。〉……『石氏讚』曰、「壘壁陣十二星、爲營壅。」

(四)『天文要錄』卷四十六·羽林辟陳十三·占太白

『東晉紀』曰、「太白入守天陳、兵大起、君臣走亡。期百六十日。」

『晉書』卷十一·天文志上·星官在二十八宿之外者（『隋書』略同文）

壘壁陣十二星、在羽林北、羽林之垣壘也。主軍衛。爲營壅也。五星有在天軍中者、皆爲兵起。熒惑·太白·辰星尤甚。

『史記』卷二十七·天官書

其南有衆星、曰羽林天軍。軍西爲壘^①、或曰鉞。

(1) 正義「壘壁陳十二星、橫列在營室南、天軍之垣壘。占、五星入、皆兵起、將軍死也。」

『開元占經』卷三十七·熒惑占八·熒惑犯石氏外官一、熒惑犯羽林十三

郝萌曰、「熒惑入壘城、有兵起。」

『開元占經』卷五十二·太白占八·太白犯石氏外官一·太白犯羽林九

石氏曰、「太白入天軍中、爲兵起。」

(五)『開元占經』卷二十九·歲星占七·歲星犯石氏外官一·歲星犯羽林十二

郗萌曰、「歲星犯守天軍、爲兵起、有破軍・死將。」

『開元占經』卷三十七・熒惑占八・熒惑犯石氏外官一・熒惑犯羽林十三

郗萌曰、「熒惑犯守天陣、爲兵起、有破軍・死將。」

『開元占經』卷四十四・填星占八・填星犯石氏外官一・填星犯羽林十三

郗萌曰、「填星犯守天軍、爲兵起、有破軍・死將。」

『開元占經』卷五十二・太白占八・太白犯石氏外官一・太白犯羽林九

『郗萌占』曰、「太白犯天軍、爲兵起、有破軍・死將。太白入天壘、天下有兵。朞二十日若百廿日。」

『開元占經』卷五十九・辰星占八・辰星犯石氏外官一・辰星犯羽林十三

郗萌曰、「犯守天陣、爲兵起、有破軍・死將。」

44 ①

北落師門（閭闔反入所飢反平）石氏曰一星在州南入危九度去極百升度□□□大在中道外芒度也□□□主候兵陣曰北伏也落失也師衆也兵事尚凶也□晉志曰北者病在北方也落天之番落也師門猶軍門也長安城北門曰北落門以象此也主非常以候兵有星守之虜入塞中兵起之也□□星微若亡天下有兵若芒角亦然日月乘犯守若中北落者皆為天下兵大起五星有與北落鬪有光芒相及皆為兵戰復覆軍斂大將史記曰五星犯軍起火金水尤甚水患漢書音議曰木土入北落軍則吉也

44 ②

北落師門（閭闔反、入。所飢反、平。）。石氏曰、「一星。在羽南。入危九度、去極百升度太。在中道外升三度也。主候兵。陣曰、「北伏也。落失也。師衆也。兵事尚凶也。」『晉』志曰、「北者、宿在北方也。落、天之番落也。師衆也。師門猶軍

門也。長安城北門曰北落門、以象此也。主非常、以候兵（兵[□]）。有星守之、虜入塞中、兵起。」之也。「星微若亡、天下有兵。若芒角、亦然。日月乘犯守若中北落者、皆爲天下兵大起。五星有與北落鬪、有光芒相及、皆爲兵戰、復覆軍殺大將。」『史記』曰、「五星犯、軍起。火・金・水尤甚。水水患。」『漢書音義』曰、「木・土入北落、軍則吉也。」

44 ③

北落師門（閭[㊦]閣[㊦]の反、入。所飢[㊦]の反、平[㊦]）。石氏曰く、「一星[㊦]。羽の南に在り。危に入ること九度、極を去ること百升度太。中道の外に在ること升三度なり。候兵を主る。」と。陣曰く、「北は伏すなり。落は失ふなり。師は衆なり。兵事は尙ほ凶なり。」と。『晉』志に曰く、と「北[㊦]とは、宿北方に在ればなり。落は、天の番落なり。師は、衆なり。師門は猶ほ軍門のごときなり。長安城の北門を北落門と曰ふは、以て此れに象るなり。非常を主り、以て兵を候ふ。星の之を守する有れば、虜塞中に入り、兵起こる。」と。之なり。「星[㊦]微かにして若^{およ}び亡べば、天下に兵有り。若^{およ}び芒角あれば、亦た然り。日月乘犯守し若^{およ}び北落に中れば、皆天下の兵大いに起こると爲す。五星北落と鬪ふこと有れば、光芒有りて相ひ及び、皆兵戰と爲り、復た軍を覆し大將を殺す。」と。『史記』に曰く、「五星[㊦]犯せば、軍起こる。火・金・水尤も甚だし。水は水患。」と。『漢書音義』に曰く、「木・土北落に入れば、軍則ち吉なり。」と。

44 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第十二艸部

落、閭閣反。

(二) 『篆隸萬象名義』卷第二十九巾部

師、所飢反。

(三) 『三家簿讚』（石氏外官）

北落師門一星，在羽林西南。〔一星，主候兵。〕

『天文要錄』卷四十六·北落師門十四

主北落軍門、候兵也。主太子之坐守也。……魏石申夫曰、「北落師門一星，在羽林南。一曰在天軍西南。主兵事，主非常之象也。」

『開元占經』卷六十八·石氏外官·北落星占十四

石氏曰、「北落一星，在羽林西南。〔入危九度、去極百三十度太〕，在黃道外〔二十三度半〕。……『石氏讚』曰、「北落師門一星、主候兵。」

(四) 『晉書』卷十一·天文志上·星官在二十八宿之外者〔『隋書』略同文〕

北落師門一星，在羽林西南。北者宿在北方也。落天之藩落也。師衆也。師門猶軍門也。長安城北門曰北落門，以象此也。主非常、以候兵。有星守之、虜入塞中、兵起。

『開元占經』卷六十八·石氏外官·北落星占十四

『春秋合誠圖』曰、「北落主非常。」

(五) 『天文要錄』卷四十六·北落師門十四·占歲星

石申夫曰、「歲星鬪北落、芒相及有光露、軍戰、殺大將、不出三年。」

『開元占經』卷六十八·石氏外官·北落星占十四

『黃帝占』曰、「北落師門星明大、士卒昌、大將軍強。星微小若亡不見、天下兵、大將出行、其國不寧、主有憂。」
『春秋元命苞』曰、「北落角者兵起。」『文曜鉤』曰、「北落亡角有軍。」

『開元占經』卷十四·月占四·月犯石氏外官二

石氏曰、「月犯乘、若中北落、皆爲天下兵大起。」

『開元占經』卷二十九・歲星占七・歲星犯石氏外官一・歲星犯北落十四

石氏曰、「歲星與北落相貫抵觸、光芒相及、有兵大戰、破軍・殺將、伏屍流血、不可當也。朞百八十日、若一年。又守北落、亦爲兵起。」

『開元占經』卷三十七・熒惑占八・熒惑犯石氏外官一・熒惑犯北落師門十四

石氏曰、「熒惑與北落師門相貫抵觸、光芒相及、有兵大戰、破軍・殺將、伏尸流血、不可當也。朞百八十日、若一年。」

『開元占經』卷四十四・填星占八・填星犯石氏外官一・填星犯北落師門十四

石氏曰……又占曰、「填星與北落師門相貫抵觸、光芒相及、有兵大戰、破軍・殺將、伏尸流血、不可當也。朞百八十日、若一年。」

『開元占經』卷五十二・太白占八・太白犯石氏外官一・太白犯北落十

石氏曰、「太白與北落相貫抵觸、有光芒相及、爲兵戰、覆軍・殺將、伏尸流血、不可當也。朞百八十日、若一年。」

『開元占經』卷五十九・辰星占七・辰星犯石氏外官一・辰星犯北落十四

石氏曰、「辰星守北落、亦爲兵大合、女子兵起。若與北落相貫抵觸、光相及、有兵大戰、破軍・殺將、伏尸流血、不可當也。朞百八十日、若一年。」

(六) 『史記』卷二十七・天官書

及五星犯北落、入軍、軍起。火・金・水尤甚。火、軍憂。水、〔水〕患。木・土、軍吉。⁽¹⁾

(1) 集解『漢書音義』曰、「木星・土星入北落、則吉也。」

45 ①

八魁（鄱^二戛反入苦回反平）甘德曰九星在北落南陷窳淺門揭翹^口郗萌曰星入多盜賊也晋志曰主張禽獸

45 ②

八魁（鄱^口戛反、入。苦回反、平。）。甘德曰、「九星。在北落南。陷窳^口・淺門・揭翹。」郗萌曰、「星入多盜賊也。」『晋志曰、「主張禽獸。」』

45 ③

八魁（鄱^二戛の反、入。苦回の反、平。）。甘德曰く、「九星。北落の南に在り。陷窳・淺門・揭翹。」と。郗萌曰く、「星^四入れば盜賊多きなり。」と。『晋志に曰く、「禽獸^五を張るを主る。」と。

45 ④

（一）『篆隸萬象名義』卷第三十八部

八、鄱^口戛反。

（二）『篆隸萬象名義』卷第十六斗部

魁、苦回反。

（三）『三家簿讚』（甘氏外官）

八魁九星、在北洛南。一曰東南。へへへ陷窳・淺門・揚橈。

『天文要錄』卷四十九・八魁十四

齊文卿曰、「八魁九星、在北洛南。陷窳・淺門・揚橈。」

『開元占經』卷七十・甘氏外官・八魁星占十四

甘氏曰、「八魁九星、在北落東南。」『甘氏讚』曰、「八魁陷**筭**・淺門・揭翹。〔八魁主張捕・陷筭・設機也。棧覆筭也。揭翹爲毒熾、使人無踐也。〕」

(四) 『開元占經』卷八十四・客星占八・客星犯甘氏外官三・客星犯八魁六

郝萌曰、「有星入八魁、天下多盜賊。」

(五) 『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者〔『隋書』は末尾に「客星入之、多盜賊。」とあり〕

北落東南九星曰八魁、主張禽獸。

46 ①

雷電 〈力廻反平弥見反去〉甘德曰六星在室南震音慙慙動搖也

46 ②

雷電 〈力廻反、平。禰見反、去。〉。甘德曰、「**六星**。在室南。震音・慙慙・動搖也。」

46 ③

雷電 〈力廻の反、平。禰見の反、去。〉。甘德曰く、「**六星**。室の南に在り。震音・慙慙・動搖なり。」と。

46 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二十雨部

雷、力回反。

(二) 『篆隸萬象名義』卷第二十雨部

電、達見反。

(三) 『三家簿讚』(甘氏外官)

雷電六星、在營室南。へまゝ主振音・慙慙・動搖。

『天文要録』卷四十九・雷電十五

齊甘德曰、「雷電六星、在營室南。主振音・慙慙・動搖。主五龍使武神也。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者(『晉書』無文)

室南六星曰雷電。

『開元占經』卷七十・甘氏外官・雷電星占十五

甘氏曰、「雷電六星、在營室西南。」『甘氏讚』曰、「雷電震音・殷殷・動搖。」

47 ①

雲雨(禹軍反平有翊反上)甘德曰四星在辟歷南雲雨與和休祁武滋也

47 ②

雲雨(禹軍反、平。有翊反、上。)。甘德曰、「四星。在辟歷南。雲雨興[□]和休、祁[□]茂滋也。」

47 ③

雲雨(禹軍の反、平。有翊の反、上。)。甘德曰く、「四星。辟歷の南に在り。雲雨は和休を興し、茂滋を祁にするなり。」
と。

47 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二十雲部

雲、禹軍反。

(二)『篆隸萬象名義』卷第二十雨部

雨、有詔反。

(三)『三家簿讚』(甘氏外官)

雲雨四星、在霹靂南。へま主與和休、**禘茂滋**。へ

※「與」の右に「興」の傍書あり。

『天文要録』卷四十九・雲雨十六

甘德曰、「雲雨四星、在霹靂南。主**興**和休、**禘茂滋**。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者(『晉書』無文)

霹靂南四星曰雲雨、皆在壘壁北。

『開元占經』卷七十・甘氏外官・雲雨星占十六

甘氏曰、「雲雨四星、在霹靂南。」『甘氏讚』曰、「雲雨**興**和休、**禘茂**。へ興發也。和善也。休亦善也。禘雨盛貌。

孳草木蕃茂也。へ」

48 ①

霹靂(普歷反入旅激反入)甘德曰五星在土功西南舊擊梓梘把救也

48 ②

霹靂(普歷反、入。旅激反、入。へ。甘德曰、「五星。在土功西南。奮擊・梓拽・施投也。」

48 ③

霹靂〔三〕（普歴の反、入。旅激の反、入。）甘徳曰く、「五星〔三〕。土功の西南に在り。奮撃・挫拽・施投なり。」と。

48 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二十雨部
霹、普歴反。

(二) 『篆隸萬象名義』卷第二十雨部

霹、力的反。

(三) 『三家簿讚』（甘氏外官）

霹靂五星、在土公西南。へま主舊撃、挫拽、**〔施投〕**。

『天文要録』卷四十九・霹靂十七

齊甘徳曰、「霹靂五星、在土功西南。主舊撃、掩摺**〔投〕**。主遠近象也。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者（『晉書』無文）

土公西南五星曰磳磳、……皆在壘壁北。

『開元占經』卷七十・甘氏外官・霹靂星占十七

甘氏曰、「霹靂五星、在土公西南。」『甘氏讚』曰、「霹靂**〔奮撃〕**、**〔拽〕****〔施投〕**也。」

49 ①

土功吏（口東反平理致反去）甘徳曰二星在營室西南司屏廁設儲也

49 ②

土功吏（口東反、平。理致反、去）。甘德曰、「二星。在營室西南。司屏廁設備也。」

49 ③

土功吏（口東の反、平。理致の反、去）。甘德曰く、「二星。營室の西南に在り。屏廁設備を司るなり。」と。

49 ④

（一）『篆隸萬象名義』卷第七力部

功、古同反。

（二）『篆隸萬象名義』卷第一一部

吏、理致反。

（三）『三家簿讚』（甘氏外官）

土公史二星、在營室西南。（右同。）

『天文要録』卷四十九・土公史十九

齊甘德曰、「土公史二星、在營室南。主伺屏廁設備。右土公同占。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者（『晉書』無文）

室西南二星曰土功吏、主司過度。

『開元占經』卷七十・甘氏外官・土公史星占十九

甘氏曰、「土公史二星、在營室西南。一曰、土公。司屏廁設備。」

50 ①

土功（直戸反上）甘德曰二星在東辟南主豫主司過度

50 ②

土功（直戸反、上。）甘德曰、「二星。在東辟南。主豫、主司過度。」

50 ③

土功（直戸の反、上。）甘德曰く、「二星。東辟の南に在り。豫を主り、過度を主司す。」と。

50 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二土部

土、達扈反。

(二) 『三家簿讚』（甘氏外官）

土公二星、在東辟南。（土史司空屏廁設備。）

『天文要錄』卷四十九・土公十八

齊甘文卿曰、「土功二星、在東辟南。主豫、借往來。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者（『晉書』無文）

壁南二星曰土公、……皆在壘壁北。

『開元占經』卷七十・甘氏外官・土公星占十八

甘氏曰、「土公二星、在東壁南。」

『開元占經』卷七十・甘氏外官・土公吏星占十九

郗萌曰、「土公吏、主司過度。」

51 ①

土司空〈胥釐反口公反〉平石氏曰司空一星在奎南入辟七度大去極百升度在中道外升四度少之也□□知稽災〈土功之所占也〉黃明則吉石氏曰火金守司空有兵喪甘德曰司空主水金木守之天下憂水郗萌曰木火土水守多土功事若大守備大臣客星入有徭役之事之也

「一」「大」に作る。

51 ②

土司空〈胥釐反。口公反、平。〉。石氏曰、「司空一星、在奎南。入辟七度太、去極百升度、在中道外升四度少。」之也。「知禍災。〈土功之所占也。〉黃明則吉」。石氏曰、「火・金守司空、有兵・喪。」甘德曰、「司空主水。金・木守之、天下憂水。」郗萌曰、「木・火・土・水守、多土功事。若火守、備大臣。客星入、有徭役之事。」之也。

51 ③

土司空〈胥釐の反。口公の反、平。〉。石氏曰く、「司空一星、奎の南に在り。辟に入ること七度太、極を去ること百升度、中道の外に在ること升四度少。」と。之なり。「禍災を知る。〈土功の占ふ所なり。〉黃明なれば則ち吉。」と。石氏曰く、「火・金 司空を守せば、兵・喪有り。」と。甘德曰く、「司空 水を主る。金・木之を守せば、天下 水を憂ふ。」と。郗萌曰く、「木・火・土・水守せば、土功の事多し。若び火守せば、大臣を備ふ。客星入れば、徭役の事有り。」と。之なり。

51 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二司部

司、胥釐反。

(二) 『篆隸萬象名義』卷第十一穴部

空、口公反。

(三) 『三家簿讚』(石氏外官)

土司空一星、在奎南。〈……一星、知禍殃。〉

『天文要錄』卷四十六·土司空十五

主土司空、知禍殃也。……魏石申曰、「土司空一星、在奎南。主土功之所府也。」

『隋書』卷二十·天文志中·星官在二十八宿之外者(『晉書』無文)

天溷南一星曰土司空、主水土之事故、又知禍殃也。客星入之、多土功、天下大疾。

『開元占經』卷六十八·石氏外官·土司空星占十五

石氏曰、「土司空一星、在奎南。〈入壁七度太、去極百二十度少、在黃道外二十四度少也。〉……石氏曰、「土司

空星大、天下安。又曰、色黃剛則吉。一曰知禍殃。」

(四) 『天文要錄』卷四十六·土司空十五·占歲星

公連曰、「熒惑·辰星·太白守留土司空、天下有水火兵災、有兵·喪。」

『開元占經』卷五十二·太白占·太白犯石氏外官一·太白犯土司空十一

石氏曰、「太白守土司空、有兵·喪、天下憂水。」

(五) 『天文要錄』卷四十六·土司空十五

魏石申曰：……「主水、金、木守也。」

『開元占經』卷五十二·太白占·太白犯石氏外官一·太白犯土司空十一

石氏曰：「太白守土司空、有兵·喪、天下憂水。」

(六)『開元占經』卷二十九·歲星占七·歲星犯石氏外官一·歲星犯土司空十五

郗萌曰：「歲星守土司空、多土功事。」

『開元占經』卷三十七·熒惑占八·熒惑犯石氏外官一·熒惑犯土司空十五

『海中占』曰：「熒惑守土司空、其國以土起兵、若有土功之事、天下旱。」
郗萌曰：「熒惑守土司空、備大臣。」

『開元占經』卷四十四·填星占七·填星犯石氏外官一·填星犯土司空十五

『海中占』曰：「填星守土司空、其國以土起兵、若有土功之事、天下旱。」

『開元占經』卷五十二·太白占八·太白犯石氏外官一·太白犯土司空十一

『海中占』曰：「太白守土司空、其國以土起兵、若有土功之事、天下旱。」

『開元占經』卷五十九·辰星占七·辰星犯石氏外官一·辰星犯土司空十五

『海中占』曰：「辰星守土司空、其國以土起兵、若有土功之事、天下旱。」

(七)『天文要錄』卷四十六·土司空十五·占客星

石申曰：「客星守土司空、其國有淫·役之事、民人不安。」

『開元占經』卷八十四·客星占八·客星犯石氏外官一·客星犯土司空十五

韓楊曰：「客星入土司空、有土籥之事。」

52 ①

斧質^二へ甫俱反平之逸反入。甘徳曰五星在天倉西南夷式鉄質^{々々}主莖斬鉤石有饒也黃帝書曰月五星有斧質皆為大臣誅郗萌曰太白入斧質大將誅辰星入天軍質大臣誅填星入斧質大人憂又曰王者誅客星入用斧質之事色黃白諸侯獻地來赤以兵青憂傳緯曰彗出主以妄誅將叛臣反者也之

「二」他文献では鉄鑽と記述される。41に巫咸に属する鉄質の星座があり、占辭がしばしば混同される。

52 ②

斧質へ甫俱反、平。之逸反、入。甘徳曰、「五星。在天倉西南。夷貳鉄質。鉄質主莖斬鉤石有饒也。」「黃帝書」曰、「月・五星有斧質、皆為大臣誅。」郗萌曰、「太白入斧質、大將誅。辰星入天軍・質、大臣誅。填星入斧質、大人憂。又曰、王者誅。」客星入、用斧質之事。色黃白諸侯獻地來、赤以兵、青憂。」「傳緯」曰、「彗出、主以妄誅將、叛臣反者也。」之。

52 ③

斧質へ甫俱の反、平。之逸の反、入。甘徳曰く、「五星。天倉の西南に在り。夷^ただ鉄質を貳とす。鉄質鉤石を莖斬して、饒有るを主なるなり。」と。『黃帝書』に曰く、「月・五星斧質に有らば、皆大臣の爲に誅せらる。」と。郗萌曰く、「太白斧質に入れば、大將誅せらる。辰星天軍・質に入れば、大臣誅せらる。填星斧質に入れば、大人憂ふ。又た曰く、王者誅せらる。」と。「客星^客入れば、斧質を用ゐるの事あり。色黃白なれば諸侯地を獻じて來たり、赤なれば兵を以てし、青なれば憂ふ。」と。『傳緯』に曰く、「彗^彗出づれば、主妄を以て將を誅し、叛臣の反く者あるなり。」と。之なり。

52 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第十七斤部

斧、跌禹反。

『篆隸萬象名義』卷第十八金部

鈇、方禹反。

(二)『篆隸萬象名義』卷第二十五貝部

質、之逸反。又知異反。

『篆隸萬象名義』卷第十八金部

鑽、子亂反。

(三)『三家簿讚』(甘氏外官)

鈇鑽五星，在天倉西南。〔主莖斬鈇石有饒。〕

『天文要錄』卷四十九，鐵鑽二十三

主鐵鑽顛喻也。齊甘德曰，「鐵鑽五星，在天倉西南。主莖斬鈇石有饒。」

『開元占經』卷七十，甘氏外官，鈇鑽星占二十

甘氏曰，「鈇鑽五星，在天倉西南。」『甘氏讚』曰，「鈇鑽剉鈇石有饒。〔鈇斧也。鑽榘也。主斬藁，以飴牛馬。四

石爲鈇，言斬剉豐饒盈鈇石也。〕」

(四)『開元占經』卷十四，月占四，月犯巫咸中外官五

『黃帝占』曰，「月入鈇鑽者，爲大臣誅。」

『開元占經』卷五十九，辰星占七，辰星犯甘氏外官三，辰星犯鈇鑽二

黃帝曰，「入鈇鑽，爲大臣誅。」

『開元占經』卷三十七，熒惑占八，熒惑犯巫咸中外官四，熒惑犯鈇鑽六

『黃帝占』曰、「熒惑入鉄鑽、爲大臣誅。」

『開元占經』卷四十四填星占七・填星犯巫咸中外官四・填星犯鉄鑽四

『黃帝占』曰、「填星入鉄鑽、爲大臣誅。」

(五) 『天文要錄』卷四十九・鐵鑽二十三・占五星

郗萌曰、「太白・填星入鉄鑽、大將軍與大臣誅、吞血臣負、期七十日。」『天官星傳』曰、「太白・填星・辰星入

守陵、大臣誅、君死、天下勇將軍吞其朝府。」

『開元占經』卷五十九・辰星占七・辰星犯甘氏外官三・辰星犯鉄鑽二

黃帝曰、「入鉄鑽、爲大臣誅。」

(六) 『天文要錄』卷四十九・鐵鑽二十三・占客星

卜偃曰、「客星入犯鉄鑽、色白黃諸侯失地、其黃變玳寶有憂、色赤兵、青臣有憂、天子用鉞兵。

『開元占經』卷八十四客星占八・客星犯巫咸中外官四・客星犯鉄鑽九

郗萌曰、「有星入鉄鑽、諸侯有來獻地者。出鉄鑽、則獻地諸侯。色青皆以憂、赤皆以兵、黃皆以好。」郗萌曰、「客

星入鉄鑽星、鉄鑽用、以日占其國。」

(七) 『天文要錄』卷四十九・鐵鑽二十三・占彗星

梓慎曰、「彗星貫鉄鑽、天子以讒妄斂其將軍、諸侯變相攻擊、北方民飢、南方大旱。」

53
①

外屏（五會反去俛傾反上）甘德曰七星在奎南屏蔽壅陣安國家豕猪

53 ②

外屏（五會反、去。俾傾反、上。）甘德曰、「七星。在奎南。屏蔽壅陣、安國豕猪。」

53 ③

外屏（五會の反、去。俾傾の反、上。）甘德曰く、「七星。奎の南に在り。屏は陣を蔽壅し、國の豕猪を安んず。」と。

53 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二十一夕部

外、吳會反。

(二) 『篆隸萬象名義』卷第十一尸部

屏、俾領反。

(三) 『三家簿讚』（甘氏外官）

外屏七星、在奎南。（主弊權陣安。）

※「陣安」の右に「障安溷豕猪」の朱書きあり。

『天文要録』卷四十九・外屏二十一

主外屏、安屏也。齊甘德曰、「外屏七星、在奎南。主弊權鄣安。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者（『晉書』無文）

奎南七星曰外屏。

『開元占經』卷七十・甘氏外官・外屏星占二十二

甘氏曰、「外屏七星、在奎南。（外屏所以障天溷也。）『甘氏讚』曰、「屏蔽擁幢、安溷莫睹。」

54 ①

天國〈胡困反去〉甘德曰七星在屏南〈守曰圜廁之也〉清屏伏作朽廁糞兵有星入天圜上蒙之

54 ②

天國〈胡困反、去。〉甘德曰、「七星。在屏南。〈守曰、圜廁。之也。〉清屏伏作、杼廁糞丘。有星入天圜、上蒙。」之。

54 ③

天國〈胡困^三の反、去。〉甘德曰く、「七星。屏の南に在り。〈守曰く、圜は廁、と。之れなり。〉屏を清め伏作し、廁の糞丘を杼^くむ。」と。「有星^三天圜に入れば、上蒙し。」と。之れなり。

54 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二十八口部

國、古或反。

『篆隸萬象名義』卷第二十八口部

圜、胡回反。

『篆隸萬象名義』卷第十九水部

溷、胡困反。

(二) 『三家簿讚』(甘氏外官)

天溷七星、在外屏南。〈清屏服作、投設儲土。〉

『天文要錄』卷四十九・天溷二十

主天溷、豕猪也。齊甘德曰、「天溷七星、在外屏南。主清屏服作設儲。」

※「豕」の右に「豸」の傍書あり。

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者（『晉書』無文）

外屏南七星曰天溷、廁也。屏所以障之也。

『開元占經』卷七十・甘氏外官・天溷星占二十一

甘氏曰、「天溷七星、在屏南。」『甘氏讚』曰、「天溷伏作、**杼廁糞丘**。〈天溷廁也。〉」

(三)『開元占經』卷八十四客星占八・客星犯甘氏外官三・客星犯天溷七

郗萌曰、「有星入天溷、上溷下蒙。」

55 ①

天倉（且朗反平）石氏曰六星在婁南々星入奎四度大去極百十二度在中道外十八度也□□穀所藏也胃宿相助也天倉中星小衆盛則粟聚歲實星小希歲耗穀散為飢郗萌曰黃大多里歲熟也黃帝占曰戶俱開主人勝客々事不成期并日郗萌曰兩軍相當察天倉々々不見其所臨之軍分施食大窮而亡也星不具道不通戶開歲惡也五星及客星入若守皆為粟發用惡之黃帝占曰熒惑入守天倉轉粟權貴郗萌曰光守已去復反守大飢人相食期不出五年火近倉為大旱郗萌曰填星入倉粟出郗萌曰太白入倉兵起粟出守乘犯四夷人相食三年兵起西北方是之也黃帝占曰辰星守為大水之

55 ②

天倉（且朗反、平。）石氏曰、「六星。在婁南。南星入奎四度太、去極百十二度、在中道外十八度也。穀所藏也。胃宿相助也。天倉中星小衆盛、則粟聚歲實。星小希、歲耗、穀散為飢。」郗萌曰、「黃大、多里歲熟也。」『黃帝占』曰、「戶俱開、主人勝客、客事不成。期并日。」郗萌曰、「兩軍相當察天倉。天倉不見、其所臨之軍分施食、大窮而亡也。星不具、道不

通。戸開歲惡也。五星及客星入若守、皆爲粟發用惡之。『黃帝占』曰、「熒惑入守天倉、轉粟、糴貴。」郗萌曰、「火守、已去復反守、大飢、人相食。期不出五年。火近倉爲大旱。」郗萌曰、「填星入倉、粟出。」郗萌曰、「太白入倉、兵起、粟出。守乘犯四夷人相食、三年。兵起西北方。」是之也。『黃帝占』曰、「辰星守爲大水。」之。

55 ③

天倉（且朗の反、平。）石氏曰く、「六星。婁の南に在り。南星奎に入ること四度太、極を去ること百十二度、中道の外に在ること十八度なり。穀の藏する所なり。胃宿の相助なり。天倉中の星小なれども衆く盛んなれば、則ち粟聚まり歲實つ。星小にして希なれば、歲耗なはれ、穀散じて飢と爲る。」と。郗萌曰く、「黃にして大なれば、多里に歲熟すなり。」と。『黃帝占』に曰く、「戸俱に開かば、主人客に勝ち、客事成らず。期升日。」と。郗萌曰く、「兩軍相ひ當たるに天倉を察す。天倉見えざれば、其の臨む所の軍食を分施するも、大いに窮まりて亡ぶなり。星具はらざれば、道通ぜず。戸開くは歲惡ければなり。五星及び客星入り若び守せば、皆な粟の發用を爲し之れを惡む。」と。『黃帝占』に曰く、「熒惑天倉に入り守せば、粟を轉じ、糴貴し。」と。郗萌曰く、「火守して、已に去るも復た反り守せば、大いに飢ゑ、人相ひ食らふ。期五年を出でず。火倉に近づけば大旱と爲る。」と。郗萌曰く、「填星倉に入れば、粟出づ。」と。郗萌曰く、「太白倉に入れば、兵起り、粟出づ。守し乘し犯せば四夷の人相ひ食らふ、三年。兵西北方より起る。」と。是れ之れなり。『黃帝占』に曰く、「辰星守せば大水と爲る。」と。之れなり。

55 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第三人部

倉、且郎反。

(二) 『三家簿讚』（石氏外官）

天倉六星、在婁南。へゝゝ六星、廩所藏。」

※「廩」の右に「穀家」と傍書あり。

『天文要録』卷四十六・天倉十六

魏石申夫曰、「天倉六星、在婁南。主穀所藏。」

『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者（『隋書』末尾有「星黃而大、歲熟。」）

天倉六星、在婁南、倉穀所藏也。

『開元占經』卷六十八・石氏外官・天倉星占十六

石氏曰、「天倉六星、在婁南。へ南星入奎四度太、去極百二十度、在黃道外十八度。へ……『石氏讚』曰、「天倉六星。」

(三) 『開元占經』卷六十八・石氏外官・倉星占十六

『黃帝占』曰、「天倉、主倉府之藏也。天倉中星衆、穀粟聚其中、積儲實其中。星希少、倉中虛耗無儲、積粟散出。」

……石氏曰、「天倉中星小衆盛、則粟聚歲實。星希、歲耗、穀散倉、則天下亂、若大飢。」

(四) 『開元占經』卷六十八・石氏外官・倉星占十六

『黃帝占』曰、「天下有兵、而倉庫之戶俱開、主人勝客、客事不成。暮二十日發。」

(五) 『開元占經』卷六十八・石氏外官・倉星占十六

郝萌曰、「天倉星不具、道不通。」『黃帝占』曰、「天倉不見、其所臨軍分絕倉、大窮而亡。」

(六) 『開元占經』卷二十九・歲星占七・歲星犯石氏外官一・歲星犯天倉十六

『齊伯占』曰、「歲星守天倉、諸侯有發粟之事、兵起。星若當戶守之、將受命不爲主用。」

『開元占經』卷五十二・太白占八・太白犯石氏外官一・太白犯天倉十二
齊伯曰、「太白守天倉、諸侯有發粟之事、有兵起。星若當戶守之、將受命不爲主用。」

『開元占經』卷五十九・辰星占七・辰星犯石氏外官一・辰星犯天倉十六

齊伯曰、「辰星守天倉、諸侯有發粟之事、有兵起。星若當戶守之、將受命不爲主用。」……郗萌曰、「入若天倉、爲粟發用。」

『開元占經』卷八十四・客星占八・客星犯石氏外官・客星犯天倉十六

石氏曰、「客星入天倉、粟發、出兵滿野。朞三年。」『黃帝占』曰、「客星出入天倉、有發粟之事、出之有出粟、入之有入粟、不出其年、必有兵。」

(七) 『開元占經』卷三十七・熒惑占八・熒惑犯石氏外官一・熒惑犯天倉十六

『黃帝占』曰、「熒惑守天倉、天下轉粟千里、**羅貴**。」

(八) 『開元占經』卷三十七・熒惑占八・熒惑犯石氏外官一・熒惑犯天倉十六

郗萌曰、「**熒惑**守天倉、已去復反、天下大饑、人相食。不出五年。」『玄冥占』曰、「熒惑逆行守天倉、天下大饑、人相食。朞二年、遠三年。」

(九) 『天文要錄』卷四十六・天倉十六・占填星

『勅鳳符表』曰、「填星入守天倉、五穀大貴、粟出、后黨煞女。期八十日。」

『開元占經』卷四十四・填星占七・填星犯石氏外官一・填星犯天倉十六

『荊州占』曰、「填星守天倉、天下飢、粟出。」

(十) 『天文要錄』卷四十六・天倉十六・占填星

郗萌曰、「太白入天倉、兵起、糴貴、四夷人相食、西方・北方盡將起戰。」

『開元占經』卷五十二・太白占八・太白犯石氏外官一・太白犯天倉十二

石氏曰、「太白入守天倉、有兵起、食粟散出。一曰、年穀不登、人民飢。」郗萌曰、「太白中犯乘守天倉、四夷人相食。朞三歲。兵起西方若北方。」

(十一) 『開元占經』卷五十九・辰星占七・辰星犯石氏外官一・辰星犯天倉十六

黃帝曰、「守天倉大水。」

56 ①

天庾（餘禹反上）甘德曰三星在天倉南守曰大曰倉小曰庾也漕穀草茂舟楫郗萌曰火入天積庾中大旱粟穀發用也

56 ②

天庾（餘禹反、上）甘德曰、「三星。在天倉南。」守曰、「大曰倉、小曰庾也。」漕穀草茂舟楫。郗萌曰、「火入天積庾中、大旱、粟穀發用也。」

56 ③

天庾（餘禹の反、上）甘德曰く、「三星。天倉の南に在り。」と。守曰く、「大を倉と曰ひ、小を庾と曰ふなり。」と。穀を草茂の舟楫もて漕ぶ。郗萌曰く、「火天積の庾中に入れば、大旱、粟穀發用するなり。」と。

56 ④

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二十二戶部

庾、食乳反。

(二) 『三家簿讚』(甘氏外官)

天庾三星、在天倉東南。主傳穀芳茂舟船。

※文字が左半分切れている。

『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者(『隋書』は「南」を「西南」に作る。)

(天倉) 南四星曰天庾、積廚粟之所也。

『開元占經』卷七十・甘氏外官・天庾星占二十三

甘氏曰、「天庾三星、在天倉東南。屋積曰倉、露積曰庾。」『甘氏讚』曰、「天庾積穀、草茂身拊。」

(三) 『開元占經』卷三十七熒惑占八・熒惑犯甘氏外官三・熒惑犯天庾六

郗萌曰、「熒惑入天庾中、大旱、粟貴發用。」

57 ①

天困(駟筠反平) 石氏曰十三星在胃南東北星入胃六度小去極九十六度半守曰員倉曰困也困給御糧郗萌曰困星見即困倉滿實不見即皆虛熒惑守入粟出布於民又歲惡大飢晉太元廿二年火入天困占曰大飢廿一年四月太白入天困占曰為飢是歲連水旱衆人大飢

57 ②

天困(駟筠反、平) 石氏曰、「十三星。在胃南。東北星入胃六度小、去極九十六度半。」守曰、「員倉曰困也。困、給御糧。」郗萌曰、「困星見即困倉滿實、不見即皆虛。」熒惑守入、粟出布於民。又歲惡大飢。晉太元廿二年、火入天困。占曰、大飢。廿一年四月、太白入天困。占曰、為飢。是歲連水旱、衆人大飢。」

天困（駟^㉑錡の反、平。）石氏曰く、「十三星。胃の南に在り。東北星胃に入ること六度小、極を去ること九十六度半。」と。守曰く、「員倉を困と曰ふなり。困、御糧に給す。」と。郗萌曰く、「困星見ゆれば即ち困倉滿ち實ち、見えざれば即ち皆な虚し。」と。「熒惑^㉒守し入れば、粟出だして民に布す。又た歳悪く大いに飢う。晉の太元^㉓二年、火天困に入る。占に曰く、大いに飢う、と。并一年四月、太白天困に入る。占に曰く、飢と爲る、と。是の歳^㉔連りに水旱あり、衆人大いに飢う。」と。

(一) 『篆隸萬象名義』卷第二十八口部

困、胃倫反。

(二) 『三家簿讚』(石氏外官)

天菌十三星、在胃南。へま十三星、給御糧。

※「菌」の右に「困圖」の傍書あり。

『天文要録』卷四十六・天園十七

魏石申曰、「天園十三星、在胃南。主給御糧。」

※「天園十七」の左に「困歟」の傍書あり。

『晉書』卷十一・天文志上・星官在二十八宿之外者（『隋書』末尾有「星見則困倉實、不見即虚。」

天困十三星、在胃南。困、倉廩之屬也、主給御糧也。

『開元占經』卷六十八・石氏外官・天困星占十七

石氏曰、「天困十三星、在胃南。〈東北入胃六度少、去極九十六度半、在黃道外十四度少。〉……石氏曰、「天困十三星、給銜糧者也。」

(三) 『天文要録』卷四十六・天園十七・占天園

『東晉紀』曰、「天園明光衆見天下、園倉滿、君臣昌、民人詠歌不息。」

『隋書』卷二十・天文志中・星官在二十八宿之外者

星見則困倉實、不見即虛。

『開元占經』卷六十八・石氏外官・天困星占十七

郗萌曰、「天困見即天下困倉實、不見即皆虛。」

(四) 『開元占經』卷三十七熒惑占八・熒惑犯石氏外官一・熒惑犯天困十七

郗萌曰、「熒惑守天困二十日、粟出布於民、歲大飢。〈案『宋書』天文志曰、「晉孝武太元二十年六月、熒惑入天困。

隆安九年、王恭舉兵、朝廷殺之、及王國寶王緒。是後連歲水旱、人民大飢也。〉」

『晉書』卷十三・天文志下・月五星犯列舍

(太元)二十年六月、熒惑入天困。占曰、大饑。……(二十一年)四月壬午、太白入天困。占曰、爲饑。

(以下、次號掲載豫定)

[附記] 本稿はJSPS科研費の基盤研究B(20H01301)の助成を受けた成果の一部である。なお前號の各項目④において、『天文要録』卷四十六(石氏外官占)を参照できていなかった。今回から参照しているため、ここに注記する。